

国見温泉森山荘

疲れた登山者（とそのペット）のための宿

十和田八幡平の温泉宿には、湯治場として発展したところもあれば、ハイキングを中心に発展したところもあります。標高 1,868 メートルの秋田駒ヶ岳の中腹、標高 860 メートルの場所にある国見温泉 森山荘は、はっきりとこの後者に分類されます。

現経営者の森宗一さんの祖父である森リウさんは、1930 年代初頭に友人とハイキングに出かけた際にこの温泉を発見し、1939 年に最初の建物を建てました。当時は道路がなかったため、必要な資材はすべて鬱蒼とした森を通して人が担いで運ばなければなりませんでした。

「ここまで登ってくるのはとても大変だったので、当初は普通のお客さんは来ず、来るのはハイキングが好きなとても頑健な人たちばかりでした」と宗一さんは言います。

宗一さんが 5 歳の 1960 年、道路が整備され、バスの運行が始まりました。ハイキングだけでなく湯治目的の客も訪れるようになり、森山荘の客層は幅広くなりました。食料の運搬が容易になったため、森山荘ではもともとあった自炊客用の細長い平屋に加え、食事提供を行うための食堂を備えた 3 階建ての大きな建物を建てました。

森山荘には 3 つのお風呂があります：男女別の内湯 2 つと、5 人が入れる小さな混浴露天風呂で

す。最近、混浴風呂に対する顧客の関心が高まっている、と宗一さんは言います。森山荘では、客が裸で入浴するか、それともタオルや湯あみ着を身につけて入浴するか（水着は禁止です）に関して決まりを設けていません。また、森山荘には皮膚炎を患うペットのための特別な風呂も 2 つあります。

現在でも昔ながらの湯治をする長期滞在客は訪れますが、大半の客はハイキングが目的です。「ハイカーにサービスを提供するのは祖父の夢だったので、トレイルの入り口に宿を構えていることを誇りに思っています。ハイカーたちはここで、登山の前に水筒に湧き水を補充し、下山時には気持ちの良い熱いお風呂に入ったり、登山靴を洗ったり、休憩したりします」と彼は言います。

宗一さんは、無理に宿の規模を拡大する必要性を感じていません。それどころか、彼はこの宿、特にその親しみやすい家庭的な雰囲気、そのままに保ちたいと言います。